



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

## シリア：ジュネーブ国際会議開催（2）

1月22日、スイスのモントルーでシリア問題の政治的解決を模索する国際会議が開催された。シリア政府代表、反体制派代表としてシリア国民連合が参加した。両者は、初めて公式の交渉の場にそろって出席した。両者は相手に対する厳しい非難をおこなったが、会議の途中で席を立つことはなく、最後まで会議に参加した。24日からはジュネーブで、国連の仲介で、シリア政府とシリア国民連合の間接協議が開始される予定である。22日の会合は一種のセレモニーであり、ジュネーブ国際会議の本筋の協議は24日から開始される当事者間の協議になる。

22日の会合には、40前後の国・機関が参加した。国連の潘事務総長がホストを務めた。米国のケリー国務長官、ロシアのラブロフ外相などが参加した。日本からは岸田外相が参加し、シリアに対する1.2億ドルの追加的人道支援を行うことを発表した。会合では、シリア政府、シリア国民連合が自分たちの公式な立場を表明した。米国、ロシアなども同様である。その結果、さまざまな立場が表明された。シリア政府代表と反体制派代表が、相手を非難したのは、公式の会合で冒頭演説であり、会議に臨む自分の立場を表明する意味合いが強い。冒頭演説の後の発言が本音の主張になると推定されるが、協議の先行きは予断を許さない。

24日からの協議は中断される可能性がある。しかし、今回、シリア政府、反体制派代表が同じテーブルに座ったことは、当事者間での政治的解決を模索するための最初の一步になる。国際会議が開催されても、急速に現地状況が変わることはないだろう。シリア国民連合が、シリア国内でどの程度の影響力を持っているかもはっきりしない。しかし、シリア政府と反体制派代表が協議をする場所がないまま内戦が継続されていた状況は、1月22日の協議によりわずかだが変化した。

またあまり注目されていないが、欧米諸国が主導してシリア問題を協議する会合にシリア政府が出席したのも初めてである。ケリー国務長官は、シリア反体制派やシリア周辺国の首脳と頻りに会談しているが、中東調査会のデータでは、シリア政府の要人との公式な接触はない。シリアの閣僚が参加する会合に同長官が参加したのは初めてである。22日の国際会議は、国際社会のシリア政府に対する対応や認識が変化していることを示しているのかもしれない。

（中島主席研究員）